

氏名	赤 木 忠 厚
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 246 号
学位授与の日付	昭和42年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	<b>C<sub>3</sub>Hf/Bi</b> マウスに於けるアデノウイルス12型誘発腫瘍の発生状況と病理組織学的研究
論文審査委員	教授 小川 勝士 教授 妹尾左知丸 教授 矢部 芳郎

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

アデノウイルス12型がハムスターに高率に腫瘍を発生せしめることは周知のところであるが、マウスに対しても低率ながら発癌性を有し、しかも系統によって発癌率に差があるといわれている。今回著者は C<sub>3</sub>Hf/Bi (Zb) マウスを用いて腫瘍の発生状況を詳細に検討すると共に、腫瘍の病理組織学的検索を行い、小川らのハムスターにおける本ウイルス誘発腫瘍の神経外胚葉性支持細胞由来説がマウスに於いても妥当であるか否かを検討した。83匹の新生仔 C<sub>3</sub>Hf/Bi マウス腹腔内に本ウイルスを接種し、うち37匹は接種後34日から59日の間逐次屠殺して初期の腫瘍芽の発生を追求した。腫瘍芽は肉眼的には37日目に初めて発見された。残り46匹について長期の観察を行ったところ38匹(83%)に腫瘍が発生し、腫瘍死迄の期間は53~167日(平均84日)であった。雌に於ける発生頻度には差がないが、腫瘍死迄の日数は雌が平均69日、雄が101日で雄の方が明らかに遅く、腫瘍の発育に対する性ホルモンの影響が考えられた。腫瘍は多中心性に胃腸管壁、骨盤底部、腸間膜等の漿膜下に発生するが、特に胃腸管漿膜面から個々の小腫瘍結節がポリープ状に隆起する所見は特徴的であった。9匹に於いて縦隔洞リンパ節に遠隔転移が見られた。組織像は短紡錘型の細胞が長い細胞突起で基質に垂直につながる像が特異的で、腫瘍細胞の柵状配列、偽ロゼットの出現、長紡錘形細胞の束状渦状配列が見られた。好銀線維の産生は部位によって異なるが一般に弱い。以上の所見は本質的にはハムスターのそれと何等異なるものでなく、アデノウイルス誘発腫瘍の未熟神経外胚葉性支持細胞由来説を裏づける

結果を得た。

(細胞核病理学雑誌, 11巻2号, 1967年10月掲載予定)

#### 論文審査の結果の要旨

本研究は、アデノウイルス12型を新生仔 C<sub>3</sub> Hf/Bi マウスに接種し、腫瘍の発生頻度、部位、組織形を検索したものであるが、マウスに於ける発癌では従来知られていない多くの重要な知見を提供したものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。